

入選 高学年の部

いつもありがとう、おとうさん

石川県
羽咋市立邑知小学校四年

岡田 涼子

「おーい、涼子。田植えきに乗るか。」

と、おとうさんが、わたしの手をとって乗せてくれました。大きな田植えきの上は、涼しくてながめもよく、とてもいい気分でした。きかいが動いて、一本ずつ苗が植えられていくのを見つめていると、「どうや、じょうずに植えるやる。いい気分やなあ。」とお父さんが言いました。

「うん、いい気分や。最高やよ。」とわたしが返すと、お父さんはとびきりの笑顔で、わたしの頭をなでてくれました。

田んぼ仕事をしている時のお父さんは、とてもかっこいいです。

お父さんは、じいちゃんがなくなつてから一人で田んぼの仕事をしています。ベアリングの会社にも行つているので、田んぼの仕事は、休日や仕事の前か帰宅後の夕方に行っています。たくさん働いてきて、つかれているはずなのに、弱音をはかず、いつも元気に田んぼの仕事をしています。とてもがんばり屋で努力をしているお父さんは、じまんのお父さんです。

ベアリングの仕事は、鉄をけずるので危ないことがあると、お母さんから聞いたことがあります。

この前、お父さんは、指に包たいをまいて帰ってきました。金ぞくのはへんがとんできて、きず口から血がとまらなかつたので、お医者さんでぬつてきたとお母さんに話していました。その後、夕ごはんを食べている時、

「お父さん、だいじょうぶなん。」と、小さな声でお母さんに聞くと、

「うん。だいじょうぶやよ。涼子心配してくれてありがとう。」と言いました。続けてお母さんは、「お父さん、まったく、あれだけ気をつけてつて毎朝言つてるのに、もつとよく見て働いてくださいよ。たのみますよ。」と、半分おこつたように、お父さんに言いました。お母さんの心配な気持ちがわかつているのか、お父さんは、「わかるとる、わかるとる。」と、大きくうなずいてばかりいました。

きずは少しづつよくなつていきました。でもその間も、お父さんは、早起きして田んぼの水回りや草取りをしていました。苗は、ぐんぐん成長していくので、毎朝每ばん気にかけていました。

お父さんに、どうしてそんなに働けるのか聞いてみると、「そうやなあ、むずかしいこと聞くなあ。どうしてつて言われてもなあ。人間は、生きていくために働かんとだめなんや。涼子は今はちゃんと勉強することが大切なんや。」と、言いながらおでこをくつつけてきました。「そうそう、お父さんのこういうところが、わたしは大すきなんだ」と思いました。

お父さん、これから元気に働いてくださいね。いつも本当に、ありがとう。